

本県に適した飼料用米品種の選定

早期・普通期栽培の双方で「ミズホチカラ」が安定して収量を確保できます。

背景・目的

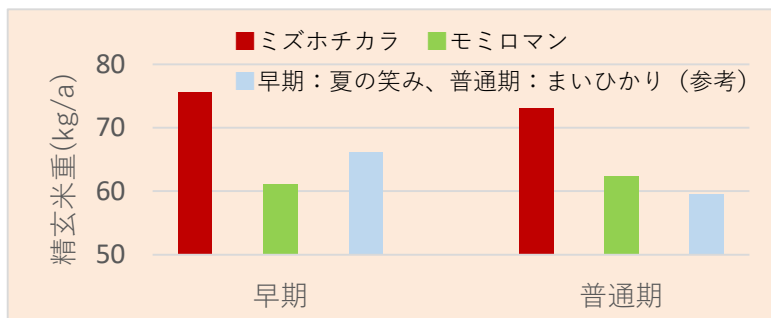
- 平成20年に早期栽培、普通期栽培の双方において、収量性、栽培特性、識別性に優れる飼料用米品種として「モミロマン」を選定しましたが、生産現場では収量が伸び悩み、収益確保に繋がらないことから面積拡大の阻害要因となっていました。
- そこで、その後に育成された飼料用米品種の中から本県に適した品種の選定を行いました。

成果の内容

- 「ミズホチカラ」の精玄米重は、
 - ・4月下旬移植の早期栽培では75.6kg/aで、供試5～8品種中、最多となりました。
 - ・5月下旬移植の普通期栽培は73.2kg/aで、供試6～7品種中、最多となりました。

(表)：飼料用米品種比較試験結果(場内 平成28年～30年)

品種名	移植日 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	登熟 日数	精糲重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	千粒重 (g)	粒数 (百粒/㎡)	登熟 歩合(%)
ミズホチカラ	4.21	72	21.3	392	7.21	9.01	42	99.8	75.6	23.2	466	66.6
モミロマン		85	24.1	304	7.20	9.01	43	82.9	61.0	24.4	443	52.2
ミズホチカラ	5.28	76	21.7	278	8.18	10.05	48	96.0	73.2	24.4	407	69.6
モミロマン		90	24.4	232	8.15	10.04	50	83.7	62.3	25.6	362	60.1



(図)：収量性の比較(平成28年～30年)



(写真)：「ミズホチカラ」(早期栽培：平成29年9月撮影)

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 飼料用米品種「モミロマン」や主食用の多収品種「夏の笑み」、「まいひかり」に比べ、増収(「モミロマン」比：早期栽培24%増、普通期栽培17%増)が期待できるため、飼料用米生産者の収益向上につながります。
- 本県の早期栽培、普通期栽培双方で採用できるため、作期の分散や採種事業の効率化が図れます。
- 普及対象地域・面積：県内全域・400ha

留意点

- いもち病のほ場抵抗性は「不明」とされているが、県内の現地ほ場では発生が確認されているため、防除は「多収品種の栽培マニュアル」(平成30年12月改訂版 農林水産省)や地域の栽培指針に基づく実施が必要です。

関連研究成果カード：平成30年後期 番号1

関連事業名：大規模水稻生産集団及び法人向けの新規需要米の低コスト、多収栽培法の確立事業(県単)

研究期間：平成28年～30年